

人生懐古

このたびの東日本大震災で小野町の皆さま方で被害に遭われた方に、心よりお見舞い申し上げます。

今回、飯豊小学校時代の同級会の件で、小学校時代の同級生に卒業以来初めて連絡することができました。そこで同級生の先崎丞さんから『ふるさと小野町会』があることを知らされ、同会の趣旨に賛同して入会させていただきます。

私も若くて現役でバリバリ働いている時は、自分の仕事のため、家族のためを思い、故郷のことなど考えることも思いません。現在は年金生活で暇になり、ポケストップのため、家の近くの保育園で週に2〜3回約2時間、小さい子どもたちと遊びながら働いています。

「年を取ると子供に返る」とよく言われますが、私も

もうすぐ78歳になります。今的小野高校の前身、田村農業高等学校を卒業する(18歳)まで、故郷にお世話になりました。子ども時代は、太平洋戦争が始まり、物のない時代で、実家も子どもが多く、大家族で貧しい生活をし、今考えると両親は大変だったと思います。戦争時代だから仕方がないと思いますが、小学校、中学校に通学するのに運動靴や長靴がなく、わら草履・高げたを履いて学校に行きました。雪が積もっている時、高げたを履いて学校に行くと、途中で高げたの歯に雪がはまって歩けなくなり、悔しくて高げたを脱いで、はだしで雪道を歩いたこともありました。学校に着いて教室のいろりの炭火にあたると、足が痛くなり、我慢できないほどだった記憶があります。子ども時代は貧しい生活ばかりで、良い事が思い出せません。

勉強もあまり好きではありませんでしたが、たまに本を読んだり学校の宿題をしていると、よく母に「本を読む、勉強などする奴はろくな人にならない。理屈ばかり言って体を動かさない人間になってしまふ」と怒られました。母は昔の田舎の人の考えで、最近の若いお母さんとはだいぶ違う考えを持った人でした。

年を取ったせいなのか、最近はずいぶん子ども時代の故郷が懐かしく、亡くなった父母や兄弟の夢をよく見るようになりました。私は9人兄弟の5男ですが、兄たちが亡くなり、現在4人兄弟の一番上になりました。

3月18日に小学校時代の同級会を行うことになっていましたが、3月11日の東日本大震災と福島原発の放射能などの影響で中止になりました。先日、その同級会が今年中にあると聞いて、皆さんにお会

いする日が来るのを楽しみに待っています。小学校卒業以来、一度も同級会に出席したことがありません。それは自分の生活が大事で、余裕がなかったからです。卒業以来、初めて同級生の皆さんの顔を見るのが楽しみです。小野町の皆さんも、一日も早く大震災前の生活に戻れるようにお祈りいたします。



郡司 友信

(吉野辺出身／東京支部)

